



Baika Library Times

特集：雑誌！！ ステップアップ

なぜ いま 雑誌なの？

A：雑誌の誕生

図書館界で[逐次刊行物]と通称される『雑誌』の始まりは1665年フランスの「Journal des Scavans」といわれています。またマガジンという語は1731年イギリスで創刊された『Gentleman's Magazine』に始まりました。Magazineとは倉庫や宝庫を意味し、図書(Book)とともに人類が創造した「知識の蔵」の役割を果たしてきました。日本では、フランスから遅れる事2世紀、1867年(慶応3)『西洋雑誌』が刊行され、「雑誌」という語が初めて使われました。この雑誌は、西洋の歴史や文物を紹介するれも、近代文明が開花し、人々の識という時代背景がありました。



総合雑誌の役割を果たすものでした。いず
字能力が向上し情報が飛躍的に増加する

目次:

特集： 雑誌！！ステップアップ	1
アナログ雑誌	2
デジタル雑誌	4
使ってみよう。 DNA	6
使ってみよう。 MAGAZINEPLUS	7
Bai-Lisのご紹介	8
図書館ホームページ	8
図書館ガイダンス・ スケジュール	9
2001年度図書館展示と 講演会のお知らせ	10
大学図書館の動向	11
新収資料から	11

B：アナログ雑誌

約500年の歴史とともに生きてきたこれらのアナログ雑誌は19世紀後半からさまざまな形を生み、雑誌の黄金時代といわれる20世紀に恐竜のごとく肥大化してきました。今、世界中で22万タイトル以上発行され、世界の図書館が所蔵する雑誌は200万タイトルに達しようとしています。まさに雑誌情報は氾濫し、必要な情報の入手さえ困難な情況を生み出し、もはや人類自身では制御できない事態が生じてきました。必要な情報を探し出すために索引誌などの二次文献が切実に求められるようになりました。

この命題は20世紀の最後に登場したデジタル技術(コンピュータ)を図書館が本格的に導入するきっかけともなりました。



ITによってアナログ雑誌の索引技術は飛躍的に発達しその終息は回避されませんでした。

C：デジタル雑誌

ITは、二次情報だけでなく内容記事そのものをデジタル化して新しい電子ジャーナルという怪物を生み出しました。いわゆる電子図書館の誕生です。21世紀はアナログとデジタルを如何に共存させ、如何により豊かな世界を実現していくかが最初の大命題となりました。

人類にとって知的情報は人間らしく生きる命の糧です。私たちはその糧を主食(Book)から副食(Non-Book)中心のメニューに切り換える必要を感じています。アナログもデジタルも十分に活用できる知的環境を、図書館と言う器の中に整備していかねばならないと思います。

知的情報の源としての雑誌の現況と将来像をご紹介し、雑誌活用のステップアップとしていただければと願ってこの特集をお届けします。

(山口紀久子)



アナログ雑誌



雑誌の種類（速報性による区分）

論文速報誌：新しい研究について速報的に紹介するもの
 レター誌：研究の完成前に、研究テーマを公表するもの
 ニュース誌：技術開発や社会のニュースを伝えるもの
 カレンダー：会議資料の情報を速報するもの
 目次速報誌：雑誌の目次を集めて速報するもの
 データ誌・統計速報誌：データや統計情報を速報するもの
 情報誌：マスメディアや各地の催し物、求人、買い物などの情報を速報するもの

アメリカでは19世紀に雑誌出版が隆盛になり、文芸雑誌‘The Atlantic Monthly’（1857年創刊）などが発行されましたが、20世紀には新しい形式の雑誌‘The Reader’s Digest’（他の雑誌に載った記事のなかから主要なものだけを選んで要約掲載した情報サービス誌。現在18ヶ国語に訳されて月刊発行部数が2700万部を超えており、世界で最もよく売られています）が1922年に生まれました。現在最も著名で、発行部数の多いニュース週刊誌‘Time’は1923年の創刊です。

雑誌の増大と二次資料の充実

1960年代まで300年間、学術雑誌は年5%ないしは4%の率で増加したといわれています。1970年代には増加率が2.5%から3%に低下しましたが、21世紀初頭には、世界の学術雑誌の数は100万タイトルに達するだろうと予想されています。

日本では戦後雑誌数は飛躍的に増大しました。雑誌文献の増大と共に、必要な文献を探す道具として索引誌が出版されるようになり、標題のみでは内容評価が困難なため、短文の内容説明を加えた抄録誌が作られました。

オリジナルな情報を伝える雑誌文献を一次資料というのに対して、索引・抄録誌を二次資料と呼んでいます。

英米の雑誌

イギリスでは長い歴史をもつ雑誌が多く、学問や科学の進歩・分野の進展で、19世紀に現在まで続いている専門誌が次々に登場しました。医学雑誌‘The Lancet’は1823年に、経済雑誌‘The Economist’は1843年、科学雑誌‘Nature’（記事が最も多く引用されている雑誌のひとつ）は1869年に創刊されました。

アナログ雑誌の問題と将来

欠号・未着問題

特に外国雑誌では輸送途中の事故や刊行遅延等で欠号・未着が発生し、発見、クレームが遅れると入手が困難になります。近年雑誌受入れ業務の機械化でその発見がだいぶ早く、容易になり、欠号が減少してきました。受入れ後の紛失・不明号も存在します。

スペースの問題

どの図書館でも書庫スペースの不足は深刻な問題で、すべての受入れ雑誌を永久保存するのは困難であり、保存基準を定める必要があります。

記事索引のオンライン化や相互利用の進展で、アナログ雑誌の利用も以前より容易になったと思われませんが、上記の問題や居ながらにして利用できる等ではオンライン・ジャーナルには敵いません。学術雑誌のデジタル化はますます進むと思われませんが、電子ジャーナルをまだ利用できない国(人)のことなどを考えると、まだまだアナログ雑誌の役割は重要であると思われます。（石元 泉）

雑誌の質・重要度を測るもの

「レフェリー制度」「インパクト・ファクター」

「レフェリー制度」とは、学術雑誌に投稿された論文をレフェリー（査読者：投稿論文の内容に詳しい専門家、編集委員）が「本当にその論文に何か新しい視点があるのか」等論文の質について審査するという過程を踏んでから雑誌に掲載されるシステムです。『Nature』『Science』『Cell』といった雑誌はこのシステムをとっています。この制度により、質の高い論文を収録・提供することができます。査読制度、審査制とも呼ばれます。

「インパクト・ファクター」とは、雑誌の引用度を示す尺度で、ある年のある雑誌に掲載された論文が、翌年1年間に、他の論文に平均して何回引用されたかを雑誌ごとに数値で示したものです。その数値が高いほど注目を受けた研究を掲載している雑誌であることを示します。

（安威）

「外国雑誌センター」

国外で出版される学術雑誌を体系的・網羅的に収集し、全国的な利用に供することを目的に、文部科学省の特別予算措置を受けて設置・運営されています。

現在、医学・生物学系、理工学系、農学系、人文・社会科学系の4分野について、次の9国立大学附属図書館が外国雑誌センターの指定を受けています。

医学・生物学系・・・東北大学附属図書館医学分館
 大阪大学附属図書館生命科学分館
 九州大学附属図書館医学分館
 理工学系・・・東京工業大学附属図書館
 京都大学附属図書館
 農学系・・・東京大学農学部図書館
 鹿児島大学附属図書館
 人文・社会科学系・・・一橋大学附属図書館
 神戸大学人文・社会科学系図書館
 （安威）

第2号

アナログ雑誌論文を探すための主な二次資料の紹介

アナログ雑誌に収録されている論文は、索引誌・抄録誌等の二次資料を使って検索しなければなりません。「オンライン検索」「オフライン&冊子体検索」に分けて主な二次資料を紹介します。(ここでの「オフライン」とは、CD-ROM)

雑誌論文を探すとき、オンラインやオフライン等デジタル情報を利用する検索の長所は、迅速性とキーワードによる組み合わせ検索が容易なこと、その精度と網羅性です。一方、冊子体によるアナログ検索の長所は、ブラウジングという機能です。つまり、同じテーマの文献を通覧することにより、周辺領域にある有効な文献等に気が付く可能性があるということです。

利用の際はまず、「前書き」「凡例」で収録対象、収録範囲等の確認をすることを習慣づけましょう。

* オンライン検索 *

MAGAZINEPLUS

後述の『国立国会図書館雑誌記事索引』にジャーナルインデックス、学会年報・研究報告論文総覧等が加わったもの。学内のパソコンで図書館のホームページから検索が可能です。

ERIC

<http://eric.syr.edu/Eric/>

米国の The National Library of Education が提供する教育関連文献データベース。無料

UnCover

<http://uncweb.carl.org/>

学術雑誌・論文誌 18,000 誌に掲載された 1988 年以降の記事 900 万件の検索が無料で可能。文献の取り寄せは有料。

OCLC SiteSearch

<http://cypress.dev.oclc.org:19500/>

OCLC (Online Computer Library Center) が提供する電子図書館支援システムのデモ・サイト。デモ・サイトのためデータ数にはかなりの制限がありますが、無料で公開されています。

Poole's Plus

<http://www.pooleplus.net/>

1802年から1906年までを収録する雑誌記事索引。データは40万件以上。フリー・トライアルが可能。

Webcat

<http://webcat.nii.ac.jp/>

国立情報学研究所 (NII) のNACSIS-CATで作成された全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベースをインターネット上で検索できるサービス。本学図書館のホームページからもリンクされています。

NACSIS-IR

<http://www.nii.ac.jp/ir-j.html>

NIIが提供する「情報検索サービス」。人文・社会・自然科学の分野にわたって膨大な文献情報、学術情報を提供。レファレンスカウンターの司書が代行検索いたします。

国文学研究資料館データベース

<http://www.nijl.ac.jp/databases/databases.htm>

国文学研究資料館が提供している情報検索サービス。「国文学論文目録」等のデータベースがあります。一般公開されているものと登録が必要なものとがあります。

* オフライン&冊子体検索 *

『国立国会図書館雑誌記事索引』

国立国会図書館所蔵雑誌のうち主なものの記事情報を収録。冊子体 (RBib 027#ZI) は人文・社会系分野のみ約5年ごとに累積索引版 (1948~1989年) があります。1975年以降はCD-ROMで検索できます。

『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』

国立国会図書館のものより一般的な雑誌から採録しているのが特徴。1995年までは、冊子体 (RBib 027#O94) で、1997年以降はCD-ROMで検索できます。

『全国短期大学紀要論文索引』 (RBib 027#TO72)

全国の国公立短期大学から刊行された紀要類に発表された研究論文の索引。分類別に収録。執筆者名索引が付いています。

『総合誌記事索引』 (RBib 027.5#SO28)

日本の総合誌主要22誌 (1987年7月号~94年12月号は20誌) に掲載された記事の索引。収録対象記事は人物・グループ、企業・団体、ニュース・事件に関するものです。

『Annual Bibliography of English Language and Literature』 (RBib 830.3#A-1)

英語学、英米文学に関する図書、パンフレット、雑誌論文を収録した書誌年報。英語の部は主題別、英米文学の部は年代順の配列。各巻に著者名、件名の索引があります。

『MLA International Bibliography of Books and Articles on the Modern Languages and Literatures』

(RBib 903#M-2)

各国の文学、語学、民話学に関する図書と雑誌論文を分類別に収録した書誌年報。著者名、件名の索引が付いています。

(安威和世)

* 使い方の説明会「文献・情報の探し方」実施!

詳しくは 9ページをご覧ください。

ひとくちメモ 『児童文学雑誌記事索引』

本学図書館所蔵の和雑誌・紀要に掲載された児童文学及びその関連分野の記事情報を索引したものです。

現時点では1992年以降受入のものから作成しています。以前に受入れた雑誌についてはカード型の記事索引として作成されていますので、順次過及入力の予定です。本学図書館のホームページから検索可能です。

デジタル雑誌



* オンライン * @電子ジャーナル

電子ジャーナルとは、主に学術系の雑誌(ジャーナル)を、コンピュータ・ネットワークを介して電子的に配布するものです。インターネットの爆発的な普及と周辺技術の発達により、近年急速に増加しています。従来印刷体の形で刊行されていた雑誌(プリント版)をオンライン化したもの、プリント版を持たずオンラインで創刊されたものなどがあります。時により「オンライン・ジャーナル」、「エレクトロニック・ジャーナル」などと呼ばれることもあり、概ね次のような特長を備えています。

速報性

印刷や輸送の必要がないため、論文が書かれてから発表されるまでのタイムラグが大幅に短縮される。

検索機能

書誌情報(目次、抄録)や全文がデジタル・データとして蓄積されているので、求める文献を効率良く探すことができる。

マルチメディア

印刷体ではコストのかかるフルカラー画像の提供が容易。また、動画、音声、三次元画像などのデータを提供できる。

発展性

外部データベースや関連論文へのリンク、著者や編集陣とのコミュニケーション機能(ディスカッション・フォーラム)を備えているものもある。

省スペース

書架を圧迫せず、必要な文献をその都度印刷したり、ハードディスクに保存したりできる。

その他

複数ユーザーの同時利用が可能、データの再利用が可能、郵送による未着や欠号の心配がない、など。

国内の電子ジャーナル

海外の電子ジャーナルに比較するとまだ多くはありません。学協会等が作成するオンライン形態の学術雑誌を、国立情報学研究所がインターネットを経由して提供しています。登録した会員を対象にサービスしており、最新情報は下記 URL で参照可能です。

<http://www.nii.ac.jp/olj/index.html>

ひとくちメモ 「PDF」

より印刷体に近い状態で見られるよう、ジャーナルの全文は PDF という形式で作成されていることが多いようです。これを見るにはヘルパーソフトが必要。代表的なものは、Adobe社の Acrobat Reader。ネットワーク上からダウンロードできます。

海外の電子ジャーナル

代表的なものをとりあげてみました。無料で利用できる場合もありますので、一度試してみてください。

Oxford University Press

<http://www3.oup.co.uk/jnls/online/>

国立情報学研究所の電子図書館サービスの一環として現在試験提供期間中です。本学図書館も登録していますので、学内からであれば、一部タイトルを除き全文も無料で閲覧できます。本学図書館のホームページからリンクしています。

Academic Press : IDEAL

<http://www.apnet.com/>

アメリカの大手学術出版社 Academic Press 社刊行の約 250 誌が提供されています。契約は「コンソーシアム(利用者グループ)契約」という特殊な形をとっています。上記 URL のホームページでコンテンツの検索メニューが無料で提供されていますので、目次やサンプル論文にアクセスできます。

Springer-Verlag : LINK

<http://link.springer-ny.com/>

国際的学術出版社 Springer-Verlag 社と出版社数社のタイトルが提供されています。プリント版の購読者は簡単な登録のみで利用できます。目次と抄録は一般にも公開されています。

Elsevier Science : Science Direct

<http://www.elsevier.co.jp/>

世界最大規模の学術出版社 Elsevier Science 刊行の 1,200 誌が提供されています。目次と抄録は一般にも公開されています。対応するプリント版を持たないオンライン創刊誌も提供されています。

OCLC : First Search ECO

<http://www.oclc.org/>

アメリカの OCLC という団体が図書館向けに提供しています。現在約 3,000 誌が収録され、様々な出版社の電子ジャーナルを横断検索できます。

Nature

<http://www.naturejpn.com/>

学術雑誌の代表格 Nature の日本語サイトです。Nature 最新号の日本語ダイジェストなどを読むことができます。簡単な利用登録が必要ですが、料金はかかりません。

Science Online

<http://www.scienceonline.org/>

有名科学雑誌 Science Magazine のサイトです。論文や記事がオンラインで提供されています。全文へのアクセスはプリント版の年間購読者に限られていますが、各論文の目次や抄録などは簡単な登録をすれば無料で利用できます。

第2号



主なリンク集

図書館情報大学が提供するリンク集。目次、抄録まで閲覧可能。
<http://lib.ulis.ac.jp/>

北海道大学の図書系職員による研究会が提供するリンク集。
 検索語の入力も可能。
http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp/online_journal/

大変便利な電子ジャーナルですが、過去の蓄積が保証されていない、契約を中止した時、半永久的なアクセスを期待できない場合がある、契約の内容によって利用者が限定される、などの欠点もあります。

このような不都合を解消し、また更に利便性を高めるため次のようなサービスを提供しているところもあります。

- * 新着論文が追加された時に電子メールで通知される。
 <コンテンツアラート機能>
- * 論文単位での表示と支払い(pay per view)ができる。
- * アーカイブ(情報の保存)が保証されている。
- * 論文引用索引が利用できる。
- * 論文参照履歴表示機能がついている。
- * バックアップとしてCD-ROM/DVD-ROMが提供される。

今後は、ファイル形式やユーザー認証の方法など基本部分での標準化が一層進むと思われます。また、料金体系の整備や新しい付加サービスなど、より実用的なサービスの提供が望まれるところ です。



@オンライン・マガジン

学術系の「ジャーナル」と区別して、一般向けのデジタル雑誌は、「オンライン・マガジン」と呼ばれています。印刷体のオンライン版というよりも、インターネットのメリットを生かした形になっています。代表誌を国内・国外1誌ずつとりあげました。

BizTech:Nikkei BP Online

<http://biztech.nikkeibp.co.jp/biztech/index.html/>

日経BP社が発行する雑誌のサイトを網羅しています。ニュースのメール配信サービスを提供するほか、同社の有料オンライン・マガジンを紹介しています。

BusinessWeek Online

<http://businessweek.com/>

BusinessWeek最新号のすべての記事やInternational Editionにしか掲載されていない記事も含まれています。キーワードによる記事の検索が可能です。

* オフライン *

オンラインで提供されるデジタル雑誌以外にも、バックナンバーなどがデジタル化され、主にCD-ROMで提供されています。

本学図書館では次のようなCD-ROMを備えています。

また、印刷体が変わってCD-ROMで寄贈される紀要類もあります。(インターネットで見ることが出来る大学もあります)

日経バイト CD-ROM縮刷版

毎年、発行された過去2年分の記事データが収録されている。記事はすべてPDF形式。

大宅壮一文庫創刊コレクション 日本の雑誌(明治編)

大宅壮一文庫が所蔵する明治期の雑誌の創刊号149誌を、16ミリ・マイクロフィルムで撮影後、デジタル画像処理してCD-ROMに収録。(明治以前の雑誌2誌を含む)

風俗画報

明治22年に刊行され、大正5年まで27年間にわたって発行された雑誌「風俗画報」の全号の目次と原本をCD-ROMに収録。

(松岡世利子)



「コンソーシアム」

電子ジャーナルの導入・サービスにあたっては、一つの図書館では対応に限界があります。そこでいくつかの図書館がグループを作り、契約や購読料金の業務の一元化を図る「コンソーシアム(あるいはコンソーシアム契約)」という形の電子ジャーナルサービスが注目されています。

これにより、個々の図書館当たりの価格を低額に抑えることができる、アクセスできる雑誌数の面では、大学の規模にかかわらず参加している図書館間の格差が解消される等のメリットがあります。(安威)

「電子ジャーナルの統合サービス」

電子ジャーナルの問題点として出版社ごとに利用方法が異なる点が挙げられます。これを解決する方法として、複数の出版社の電子ジャーナルを包括的に横断的に利用できる電子ジャーナルの統合サービス(Aggregator, One-Stop Shopping)があります。しかし、大学が必要とする分野全てを網羅的に提供している統合サービスは現在存在しません。出版社間の利害が絡むため容易にまとめることは不可能かもしれませんが、これが実現し、さらにはOPACと連動した所在確認機能、さらにはILL(図書館間相互貸借)のリクエスト機能まで備わったものができればと思います。

また、アナログ雑誌の検索システム(例えば、MAGAZINEPLUS等)と統合され、シームレスに検索できるようになることも期待したいと思います。(安威)

使ってみよう。DNA

DNA (Digital News Archives デジタルニュースアーカイブ)

朝日新聞が提供する高速記事索引サービスで、1984年8月以降の295万件(2000年7月現在)に上る記事データベースが検索できます。その日の朝刊に掲載された記事までが検索対象になり、扱いやすい「全文検索方式」ですべての記事中の、すべての文字列を検索することができます。

朝日新聞東京本社発行の最終版が基本ですが、各都道府県の県庁所在地をカバーする地方版も収録しています。例えば、検索ボックスの「見出し」の欄に「/ 神奈川」と入力すれば神奈川県地方版を検索します。ただし、当該都道府県に複数の地方版が存在する際は、県庁所在地をカバーする版のみの掲載です。さらに「AERA」(朝日新聞社のニュース週刊誌)は創刊号からの記事、「週刊朝日」は2000年4月からのニュース面も検索の対象。収録記事の詳細は「使い方」の中の「検索のコツ」でご確認ください。

検索方法は、and/or/notの演算子およびその組み合わせによる検索が可能です。また、asahi.comのトップページで「総合目次」をクリックすると様々なジャンル別に、言語別にアクセスでき、世界がさらに広がっていきます。

これまでのCD-ROMでは最新のデータは検索できず、また、1年単位で収録されているため、複数年にまたがった検索も不便でした。このデータベースはこれらの問題点を一挙に解決してくれます。(岩 直子)

基本操作

1. DNAのトップページから[スタート画面]をクリック。
2. 「セッションスタート」の画面から、[検索開始]をクリック。
3. 「セッションがスタートしました」の画面から[検索画面へ]をクリック。
4. 「朝日新聞・AERA・週刊朝日 記事検索」の画面で検索語を入力。
検索方法には、「シンプル検索」と「パワフル検索」があります。
*丁寧なオンラインヘルプが用意されています。困ったときには[使い方]「ヘルプ」をクリックしてください。
5. 見出し一覧の中から、本文を読みたい見出しの青文字の部分をクリック。
6. 本文が表示されます。



1. DNAのトップページ

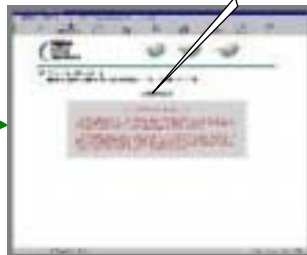
[スタート画面]をクリック。



初めてDNAを利用するときは、「DNA for librariesの利用規定」をご一読ください。

2. 「セッションのスタート」の画面

[検索開始]をクリック。



3. 「セッションがスタートしました」

[検索画面へ]をクリック。



4. 検索語の入力

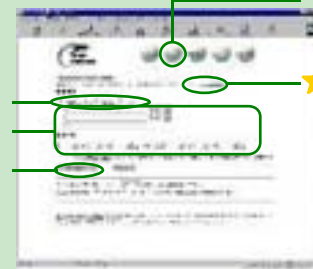
** 検索語の入力 **

検索対象を「見出し」「本文」から選択。各検索項目に必要な情報を入力。[検索実行]をクリック。

★ ヘルプ横の[シンプル検索]をクリックすると、入力方法の詳細な説明を見ることができます。

★ [使い方]の中の「検索のコツ」も参照して下さい。

「シンプル検索」の画面



「パワフル検索」の画面では、より詳しく検索条件を指定することもできます。

6. 本文表示

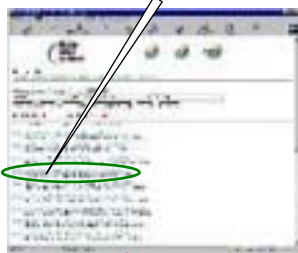
本文が表示されます。



入力した検索語が赤文字で表示されます。

5. 見出し一覧

見出し一覧の中から、本文を読みたい見出しの青文字の部分をクリック。



該当件数が多すぎる場合等は、この画面から再検索が可能です。

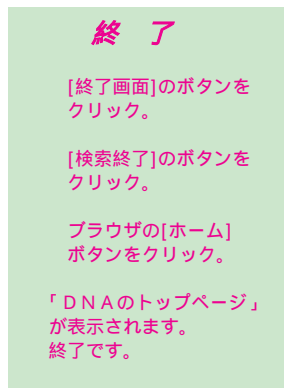
終了

[終了画面]のボタンをクリック。

[検索終了]のボタンをクリック。

ブラウザの[ホーム]ボタンをクリック。

「DNAのトップページ」が表示されます。終了です。



使ってみよう。MAGAZINEPLUS。



MAGAZINEPLUS

国内最大規模の雑誌・論文見出しデータベースです。一般誌から、学術雑誌、経済誌、海外企業誌紙など、国内外のさまざまなジャンルの逐次刊行物の記事情報を収録していますので、卒論やレポートの調査、文献収集などに役立ちます。

CD-ROM版「雑誌記事索引」を補完。また、戦後国内の学術団体によって刊行された人文系の学会年報情報（年次研究報告類や学術論文集）、約6,000冊に掲載されている論文（35万件）が収録されています。「雑誌記事索引」に加えて、その中には未収録の雑誌の記事も含まれています。

次の5つのソースファイルをひとつにまとめて提供しています。

- ・雑誌記事索引ファイル（国立国会図書館；1975年～、8,500誌、320万件）
- ・ジャーナルインデックス（日外アソシエーツ；1981年～、160誌、83万件）
- ・学会年報、研究報告論文総覧（日外アソシエーツ；1945～1995年、6,000誌、35万件）
- ・経済、産業記事見出し JOINT（経済文献研究会；1981～1995年、1,300誌、62万件）
- ・海外産業企業情報 KSK-SCANNER（機械振興協会；1984年～、60誌、13万件）

多様な検索項目（記事名・論文名、フリーキーワード、著者名、雑誌名、刊行年月日）からの検索が可能です。

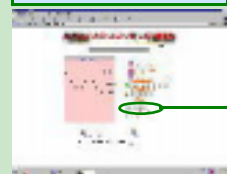
「新着情報」では、雑誌記事索引ファイルに登録された最近2週間分の雑誌目次（政治・法律・行政、経済、社会・労働、文化、芸術・文学、科学技術、医学・薬学、その他の8分類別）、ジャーナルインデックスに登録された最近1週間分の記事タイトル（実用記事、社会・政治・法律、経済・産業・労働、情報・通信・コンピュータ、サイエンス・テクノロジー、哲学・心理学・歴史、語学・教育、芸術・芸能、文学・小説の9分類別）にも見ることができます。（岩 直子）



基本操作（「検索のガイドページを開く」で利用手順、画面ガイド、操作ガイド、検索のヒント等を見ることができます。）

1. 指定の画面から **LOG IN** をクリック。
2. NICHIGAI/WEBサービス【MAGAZINEPLUS】の画面で必要な検索項目を入力し、**[検索実行]**をクリック。
3. ヒット件数が表示されます。「一覧表示」させるには**[はい]**をクリック。
4. 「詳細表示」させるには 内をチェックし、画面上方の**[詳細]**ボタンをクリック。
5. 「詳細表示」させた後は**[閉じる]**をクリック。
6. 終了時は必ず **ログアウト** をクリックしてください。（どのタイミングでも行えます。）

【MAGAZINEPLUS】
は図書館HPから
リンクされています。



1. MAGAZINEPLUSにログインするための画面です。

LOG IN をクリック。



初めてLOG INされる方は、
内容を確認して下さい。

終了

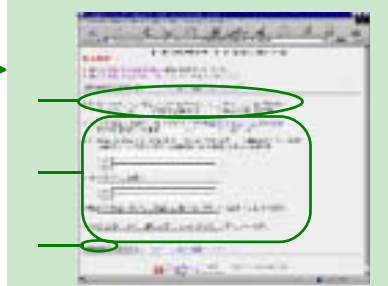
ログアウト をクリック。
(どのタイミングでも行えます)

「MAGAZINEPLUSに
ログインするための画面」
が表示されます。
終了です。

2. 【MAGAZINEPLUS】の画面 で必要な検索項目を入力

検索語の入力

検索ファイルを選択。
各検索項目に必要な情報を入力。
[検索実行]をクリック。



「詳細表示」の終了は
[閉じる] をクリック。

詳細表示した画面をあともう一度
見たい場合は、画面右上の
 で最小化しておくこともできます。

3. ヒット件数の表示

ヒットした内容を見るため
には、まず一覧表示させます。
[はい] をクリック。



ヒットした件数が1000件を
超えた場合は、検索語などを
変更して再検索して下さい。

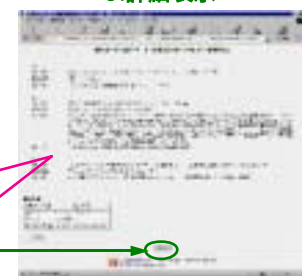
標題：記事名・論題名
著者名：著者名等
誌名等：雑誌名・年報類名
[ISSN]、(発行機関)、
巻号、発行年月日、掲載頁
備考：NDL請求記号、
等が確認できます。

4. 一覧表示

詳細表示は 内をチェック
し、**[詳細]**ボタンをクリック。



5. 詳細表示



マウスをクリックするだけで、図書館がもっとおもしろくなる！
パソコンによる図書館利用案内 ~ Bai-Lis のご紹介 ~



本学図書館ではBai-Lis (Baika Library Information System) というパソコンによる利用案内を作成し、提供しています。みなさんは図書館の便利な機能やサービスをご存知ですか？このシステムでは、図書館の基本的な利用法から、各種設備の使い方、探している本がどのあたりにあるのかなど、図書館のさまざまな情報を入手できます。「図書館ってどんなところ？」「読みたい本はどこにあるの？」そんな時、このBai-Lisをぜひご利用ください。Bai-Lisは、図書館利用の最初の入り口です。(岩 直子)

Bai-Lis トップページ



総合案内
 開館時間や所蔵資料、施設の案内など、図書館を総合的にご紹介します。全館案内図やフロア紹介もあります。「図書館ってどんなところ？」まずはここをクリックしてください。

インフォメーションカウンター
 貸出・返却、予約や複写の申し込み、利用者証のことなど。このカウンターは図書館利用の第一歩です。館内の資料や施設の利用の仕方もここでご案内しています。

資料の探し方
 求める資料をどうすれば探し出せるか、その方法をお知らせします。基本的な資料の探し方を、手順を追って確認できますので、ぜひ一度ご覧下さい。

OPAC利用法
 コンピュータによる蔵書目録の検索について説明します。OPACとは何なのか、また、その特徴や使い方をご説明します。基本操作と応用編があります。

レファレンスカウンター
 みなさんの図書館利用をサポートする情報提供の窓口です。図書館と図書館資料のことなら何でもお尋ねください。調査・研究のお手伝いをします。ここではその内容を紹介しています。

図書館ニュース
 閉館の通知や、展示会・講習会のお知らせなど、図書館についての耳より情報満載の掲示板です。図書館の最新ニュースを入手できます。新着書の案内(毎週更新)も行っています。

こんなときどうする？
 「こんなときどうするの？」「ってなあに？」
 まず、ここをクリックして下さい。図書館の用語集や、図書館でのよくある質問集を見ることができます。

マルチメディアカウンター
 マルチメディア閲覧コーナーでは、CD-ROM、DVD、インターネット等を通じて電子情報を検索・利用できます。受付はこちらのカウンターで。利用できるメディアの紹介、申し込みの方法はここをご覧下さい。

書架情報
 求める資料がどこにあるのか、各階の図書配置についての情報です。どのフロアにどんな本があるのか、フロアのレイアウト図から確認できます。また、主題(テーマ)や分類番号からも資料の配置を確認できます。



図書館の最新ニュースを配信、充実のリンク集で皆さんの情報検索をサポートします！

図書館ホームページ <http://www.baika.ac.jp/~lib>

図書館ホームページでは、図書館からの各種お知らせや、閉館日程のカレンダーなど、図書館の「今」をお知らせしています。OPACにもリンクしていますので、ご自宅のパソコンからも本学図書館の所蔵資料を検索できます。また、皆さんの情報検索をサポートする「リンク集」も作成・更新中です。情報収集にぜひ図書館のホームページを役立ててください。(岩 直子)

図書館ホームページ



お知らせ 図書館からの各種お知らせ、最新情報、図書館の「今」をお知らせしています。

新着資料速報 図書館で受け入れた新着資料をここから検索できます。(OPAC(蔵書目録データベース)へリンクしています)

図書館の概要 図書館の概要について説明しています。

図書館カレンダー 開館日程のカレンダーです。

学外者の方へ 学外者の方への図書館利用案内です。

学問資料室 梅花学問資料室のホームページへリンクしています。

Bai-Lines:本学の所蔵を調べる 本学OPACへリンクしています。本学図書館の所蔵を検索できます。OPAC(蔵書目録データベース)と児童文学雑誌記事データベースがあります。

他館の蔵書を調べる Web-CATとは、国立情報学研究所による目録所在情報サービスです。1200を超える大学図書館等の総合目録データベースが検索できます。また、国内外の他館の蔵書を調べることのできるリンク集もあります。

雑誌記事を調べる MAGAZINEPLUSとは、国内最大規模の雑誌・論文見出しデータベースです。雑誌記事を検索でき、卒論やレポートの調査・文献収集などに役立ちます。学内での利用となります。

リンク集 情報収集に役立つサイトへのリンク集です。電子ジャーナルを読む、出版情報を調べる、新聞を読む、等の他に国内外の主要検索エンジンのリンク集もあります。

What's New! 図書館の最新情報です。詳細は「お知らせ」で確認できます。



図書館ガイダンス・スケジュール

「情報リテラシー」を身につけよう！ - 「情報リテラシー」とは、自立的に、必要とする情報を認識し、それを探索・評価・選択・利用し、表現できる能力のことです。様々な種類の情報を活用できる能力が大学での学習・研究において重要になります。本学図書館には、約29万冊の図書、2700タイトルの雑誌・紀要、200タイトルの電子資料等があります。また、マルチメディア閲覧コーナーには、CD-ROM・DVD等の電子資料の閲覧やインターネットによる情報探索ができる端末（パソコン）が15台あります。これら図書館の資料・施設を快適に利用できるように、下記の日程で「図書館ガイダンス」を開催します。この機会に効率よく資料・情報を利用できるようになって下さい。

* 詳細は、ポスター、チラシ、図書館ホームページでご確認ください。

* 申し込みは、すべて3階メインカウンターにて受け付けいたします。

* 「図書館ツアー」のみ申し込み不要です。

(カレンダーの色と各ガイダンス説明文の色は対応しています)

4月	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

5月	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

赤字は閉館日

図書館ガイダンス

図書館ツアー

館員が、皆さんと一緒に図書館内を一巡しながら、館内の施設の案内、利用方法について説明します。

- ・実施期間：4月6日（金）、9日（月）～13日（金）
- ・実施時間：所要時間30分 5回/1日
9:00～、10:40～、12:10～、13:00～、14:40～
* 6日は午後のみです。
- ・集合場所：3階メインカウンター前

図書館ガイダンス

文献・情報の探し方 入門編

卒業論文やレポート作成には、先ずそのテーマに関する文献を集めることから始まります。当説明会では、Bai-Lis（図書館利用案内システム）を使って、資料の配架場所の案内、NDC（日本十進分類法）等の説明をし、冊子体の書誌・目録類（二次資料）を使って、図書・雑誌論文・新聞記事等の文献・情報を探す方法を説明します。電子資料の二次資料も紹介します。

また、本学図書館にない資料の入手方法についても説明します。

- ・実施期間：5月14日（月）～18日（金）
- ・実施時間：第1回 10:40～12:10
第2回 13:00～14:30
- ・実施場所：マルチメディア閲覧コーナー

図書館ガイダンス

Bai-Lines (OPAC) 蔵書検索システムの使い方説明会

本学が所蔵する資料を探すためには、蔵書目録を検索する必要があります。本学の蔵書検索システムには「Bai-Lines（バイラインズ）」というニックネームが付いています。コンピューターをつかって、タイトルや著者名、調べたいテーマ等から検索することができます。

当説明会では、端末機の操作方法・検索の仕方等OPACの使い方の基本をマスターできます。求める資料を効率よく探せるようになるために、是非参加して下さい。

「検索の手引き」も配布します。

- ・実施期間：4月23日（月）～27日（金）
- ・実施時間：第1回 10:40～11:25
第2回 12:10～12:55
第3回 13:00～13:45
- ・実施場所：3階OPACコーナー

図書館ガイダンス

文献・情報の探し方 電子資料編

「入門編」で紹介した電子資料の二次資料を中心に具体的な使い方の説明をします。

インターネットの使い方・検索の仕方についても説明します。

- ・実施期間：5月21日（月）～25日（金）
- ・実施時間：第1回 10:40～12:10
第2回 13:00～14:30
- ・実施場所：マルチメディア閲覧コーナー

2001年度図書館展示と講演会のお知らせ

児童文学科創設20周年を記念して

日本の絵本展

図書館6階展示コーナー

：戦後絵本の原画と原稿
展示期間：4月2日～5月2日

：縮緬本（ちりめんぼん）
～Japanese Fairy Tale Seriesを中心に～
児童図書電子化シリーズ
展示期間：5月10日～6月8日

：絵双六・おもちゃ絵・黒本・豆本
～江戸・明治の絵本など～
展示期間：6月11日～7月10日



図書館AV視聴室

講演会

お話：石澤小枝子児童文学科教授
日時：5月25日（金） 4講時

講演会

お話：加藤康子児童文学科助教授
日時：6月21日（木） 3講時

1982年、本学にわが国で初めて児童文学を文学として専門に研究する児童文学科が創設されて20年。1992年大学院修士・1994年博士課程が設置されました。それに伴って図書館の蔵書も年々充実してきています。児童文学関係の研究書及び児童図書35000冊余が体系的な研究コレクションとして評価されており、全国の大学からILL(図書館間相互貸借)による利用申し込みも増加の一途をたどっています。その中には貴重書・準貴重書も多く、利用と保存の二律背反に悩んできました。このたびそれらを順次電子化する計画の第一歩として、明治の長谷川武次郎出版の「縮緬本」絵本“Japanese Fairy Tale Series”を中心とした61種をメディア変換しCD-ROMを作成しました。今後本学の電子図書館機能のひとつとして公開していきたいと思っています。講演会ではこの電子資料を使ってのお話も計画しました。是非ご参加ください。

引き続き「ビクトリア朝の絵本」(展示：10月1日～11月9日)(講演会：10月25日 三宅興子児童文学科教授)
「日本のこども雑誌」：明治(11月15日～12月20日) 大正・昭和(戦前)(1月～3月23日)を予定しています。

同時開催：学園資料室展示

梅花学園の歴史
児童文学科創設20周年を迎えて
期間：4月2日～8月10日
澤山記念館展示ホール



大学図書館の動向

大学図書館の「公開」について

～なにを指向し、なにを提供するか～



大学図書館公開の論議は10年ごとに取りざたされる。本学では1970年から高校生以上の一般女性に対して図書館を開放してきた。1985年ころには市民の声が新聞紙上ににぎわした。1990年にはいると大学の公開が生涯学習の必要性の観点から求められるようになった。（「生涯学習の基盤整備にむけて」）93年には「大学設置基準」の大綱化を受けて、学術審議会が「大学図書館機能の強化・高度化について」報告し“公共図書館では提供し得ない高度な学術情報を地域社会や市民へ積極的に公開することが強く期待されている。”と述べた。

今また、情報ネットワーク社会の観点から大学図書館公開の形が問いなおされている。

一方大学の側も18歳人口の激減に伴う大学の危機を乗り切るため「開かれた大学」を積極的にPRしはじめている。各種統計でも大学図書館公開は確実に広まっており、図書館側・利用者側双方のアンケート調査や実態調査に基づく分析や研究論文も枚挙に暇がない。

まさに「公開」は時代のキーワードである。私たち大学ないし大学図書館員は、今一度「公開の」あり方を主体的に考えなおし、新たな第一歩を踏み出すべきときである。

大学図書館公開を再検討するに当たって考えるべきことは次の点であろう。第一は図書館の設置母体によりおのずと公開の範囲・内容は変わってくるということである。すべて公的資金(税金)で運営される国立・公立大学と私立大学の違いは最初に考慮されなければならない。

第二に地域の生涯学習のニーズを把握し分析することが重要である。大学図書館の公開は公共図書館の代替ではない。一般利用者を対象にした各種アンケートでも明らかにそのような公開が求められているのではない。一般利用者は各大学の学部・学科などの特色を反映した専門資料やレファレンスなど情報探索の水先案内人としての専門的なサービスを求めているのである。

第三に公開が図書館の運営を圧迫するのではなく、むしろ拡大し発展させる方向を考えるべきである。本来サービスすべき学生や教職員を犠牲にし、公共図書館や学校図書館の充実を求めるのではなくカバーするという「中途半端な公開」は双方にとってメリットはない。必要な情報を、必要なときに、必要とする人に提供することを考えなければならない。

大学図書館公開の新しい第一歩は、2002年にオープンする国立国会図書館関西館に象徴されるような「非来館型図書館」を指向する事ではないだろうか。ITの時代だからこそ実現できる大学図書館公開の形としていつでも、誰でも、どこからでも必要とする情報にアクセスできる環境作りを急ぐことから始めよう。それは、WBTやインターネットによる遠隔授業(「BLT」第1号参照)と密接にかかわり、これからの教育を支える基盤整備につながるものである。(山口紀久子)

新収資料から 『夢子がおばあちゃんになるとき』

平野隆彰 著 ミネルヴァ書房 2000.4刊(2階:請求番号:369.26#H66)



「老い」は誰にもいつか訪れます。そして今や日本は世界にも類をみない速さで高齢社会に突入しています。本書は高齢者福祉に係わる様々な問題をわかりやすく提起しており、重いテーマをやさしくなげかける「福祉ものがたり」となっています。福祉に特に関心がなくてもおもしろく読める本です。主人公の夢子が身近な経験を通じて現実を直視し、「夢みる夢子」から次第に成長していくところを読んでいるうちに、「老い」を考えることは結局「今」を大切に生きることにつながるのでは、と気づかれます。巻末には福祉用語の解説も付いていて便利。(松岡世利子)

リンクしている本は？

もう少し詳しい高齢者福祉の本

『高齢者の生活と福祉』 大友信勝 監修、編著 中央法規出版 1999.10刊(2階:請求番号:369.26#O86)

ジェンダーの視点から社会福祉を考える本

『社会福祉のなかのジェンダー』 杉本貴代栄 編著 ミネルヴァ書房 1997.5刊(2階:請求番号:369.25#SU38)



BLT

Baika Library Times

(年2回刊 4月,10月)

BLT 第2号をお届けします。

「特集：雑誌！！ステップアップ」はいかがでしたか？

利用可能となったオンラインジャーナル等は随時、図書館ホームページにリンクを付けます。ご注目、ご活用下さい。本学で所蔵しているCD-ROMは、館内のマルチメディア閲覧コーナーで利用できます。大いに利用してください。この特集が、みなさんの雑誌活用のステップアップになることを期待しています。

図書館ガイダンスのお知らせをしました。

これらに参加して、「図書館通」「文献・情報通」になって下さい。

このたびの「縮刷本」絵本の電子化は、本学図書館にとって初めての試みです。電子化された資料を使っての新しい研究方法・分野も現れてきています。

(編集責任：図書館広報担当者連絡会 / 安威・岩)

梅花女子大学・梅花短期大学 図書館

〒567-8578
大阪府茨木市宿久庄2-19-5

図書館

電話 0726-43-8498

Email bLibrary@baika.ac.jp

資料室

電話 0726-43-8447

Email shiry@baika.ac.jp

共通

Fax 0726-43-1952



図書館ホームページ

URL <http://www.baika.ac.jp/lib>